**日本環境変異原学会（JEMS）主催、微生物変異原性試験研究会（BMS）共催**

**第2回ICH M7関連ワークショップ　ケーススタディー募集**

**募集内容**

2017年5月23日（火）に開催する標記ワークショップにて、「QSAR結果とエキスパートジャッジメントに基づくエームス変異原性評価の事例研究」のセッションで討議する題材として、in silico評価の難度が高い20化合物を選択しました。それらの化合物に関するエキスパートジャッジメントを公募します。最も標準的と思われるアセスメントだけでなく、極めて慎重な判断から、積極的過ぎるチャレンジまで、議論の題材となり得る幅広いご意見を期待します。このセッションでは、応募いただいた中から題材を選択して、QSAR評価を補完するどのような考え方があり得るか、どの程度の説明や裏付けが必要かを、科学的な見地から議論します。

応募に当たっては、次の可能性についてご了承ください。選択された事例について、ワークショップでの発表やパネリストとしての役割をお願いする場合があります。それ以外の事例についても、内容の一部またはすべてが、ワークショップならびにJEMS学会誌のミーティングレポート等で公開される可能性があります。

**応募要領**

1) 募集期間： 3月20日（月）～31日（金）

2) 応募先　： 濱田修一（LSIメディエンス）　[Hamada.Shuuichi@mh.medience.co.jp](mailto:Hamada.Shuuichi@mh.medience.co.jp)　まで、ファイルをメール添付してください。

3) 書式　　： JEMS HP　<http://www.j-ems.org>　から、構造開示しているエクセルファイル（公募M7WS2.xlsx）をダウンロードし、各化合物のエキスパートジャッジメントの欄に記入してください。1化合物のみの応募も歓迎です。応募しない化合物については、空欄のままにしてください。応募にあたっては、次の（　）内のようにファイル名に連絡者氏名を含めるよう修正して、メール添付してください。（公募M7WS2三島雅之.xlsx）

4) 採否　　： 討議用のケーススタディーとして取り上げる代表例を世話人会で選択します。選ばれた題材について発表者やパネリストとなっていただく場合には、4月中に連絡します。それ以外の方への連絡はいたしません。

5) 問合せ　： 橋爪恒夫（武田薬品、[tsuneo.hashizume@takeda.com](mailto:tsuneo.hashizume@takeda.com)）

三島雅之（中外製薬、[mishimamsy@chugai-pharm.co.jp](mailto:mishimamsy@chugai-pharm.co.jp)）